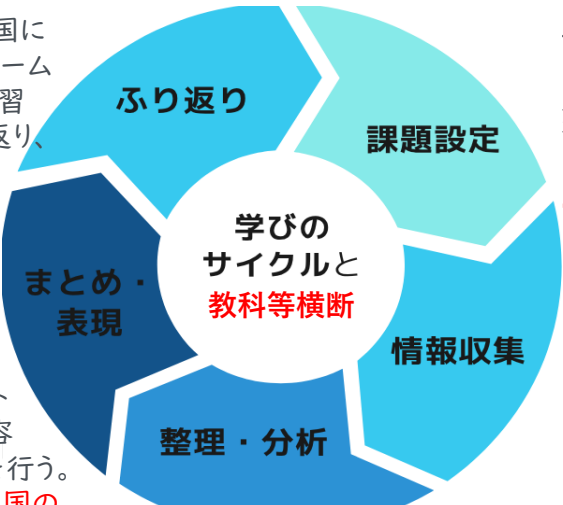


大阪府情報活用能力ステップシートの関連項目

B,C,D,E-STEP2 N-STEP2,3

5年「ガイドブックを作り、プレゼン大会をしよう！」（総合・社会）

探究学習 5つのステップ



**ステップ5**  
友だちのプレゼンを聞いてどの国に行ってみたくなったかGoogleフォームでアンケートを行う。その日の学習や、単元を通しての学びを振り返り、次の学習につなげ活かす。

**ステップ4**  
クラスで1冊のガイドブックを作成する。4年生に伝えるという「相手意識」を持ち、ロイロノートで1ページにまとめる。調べた内容を学級内で発表し、アウトプットを行う。  
※外国語「ハロー・ワールド」（各国の挨拶）や、4年国語科「新聞を作ろう」との教科等横断

**ステップ3**  
集めた情報を思考ツールを用いて整理・分析を行う。分類・比較・関連付けなど、どの思考ツールが適しているかを考え、自分で選んで使う。  
※国語科「目的に応じて引用するとき」との教科等横断（出典明記の必要性）

**ステップ1**  
身の回りの「Made in...」を見つけ撮影する。普段の生活と世界が繋がっていることを知り、自分がどの国を調べたいかを自己決定する。  
※社会科「世界から見た日本」との教科等横断

**ステップ2**  
インターネットや教科書等からその国の情報を収集する。様々な情報の中から特に気になった事柄や興味を持ったテーマを設定し、調べる国についてより深く調査を進める。  
※著作権について：NHK for Schoolを見て情報モラルの学習



子どもの変容①

「誰と学ぶ？」による個別最適な学び  
同じ国を調べる友だち、違う調べ方をしている友だち、思考ツールの使い方が上手な友だちなど、その時間に学ぶ目的をはっきりさせて、いろいろな友だちと学ぶことで考えが広がった。  
また、情報整理の仕方がわからない児童も友だちにヒントをもらい、ふさわしい思考ツールを選んでまとめることができた。さらに、ロイロノートで他者参照し、「次は自分も...しよう」と、次時の学習の見通しを持つ児童が増加した。

子どもの変容②

教科等横断で知識を繋げる  
本校の研究テーマである「教科等横断」を意識した学習活動を、今学期は特に総合的な学習の時間に取り入れた。デジタル教科書や、以前に自分が書いたロイロノートのカードを見返し、大切なことは何度も知識を呼び起こして現在の学習に繋げた。教科等横断だけでなく、前年度に学習したことも子どもたちの中から「4年の時に習った...を使おう」という声が出て、知識の広がりや深まりが見られた。

探究のステップを意識  
どの教科でも探究のステップを意識して学習できるよう、全クラスにポスターを掲示し、5つのステップカードを配付した。

